

第44回香川県環境審議会計画部会議事録

令和2年1月22日(水)

日 時	令和2年1月22日(水) 午後13時30分～		
場 所	県庁本館12階 大会議室		
出席者	香川県環境審議会委員(8名)		
	委員	勝 浦 敬 子	NPOグリーンコンシューマー高松代表
	委員	金 子 之 史	香川大学名誉教授
	委員	鎌 田 佳 子	ビジネス香川副編集長
	委員	久米川 啓	香川県医師会会長
	委員	妹 尾 理 子	香川大学教育学部教授
	委員	藤 本 智 子	弁護士
	委員	増 田 拓 朗	香川大学名誉教授
	委員	吉 田 英 子	香川県商工会議所女性会連合会副会長
	事務局(25名)		
環境森林部	部長	木村 士郎	
	次長	秋山 浩章	
環境政策課	課長	武本 哲史	
	副課長	石川 昌宏	
	課長補佐	橋本 佳之	
	課長補佐	西神 英登	
	副主幹	関根 有加里	
	主任	森 千佐	
	主任	宮本 早葵	
環境管理課	課長	小蓑 雅也	
	副課長	小原 由美	
	課長補佐	佐藤 敏幸	
みどり整備課	課長	穴吹 浩之	
	副課長	荒井 京子	
	課長補佐	井上 嘉久	
	主任	阿部 佑平	
みどり保全課	課長	笠井 正宏	
	副課長	静 孝明	
	課長補佐	池田 豊	
	課長補佐	河野 幸彦	
廃棄物対策課	課長	平池 岳弘	
	副課長	田中 昌和	
	課長補佐	高橋 正博	
	課長補佐	北内 孝	
	主任	岸上 勝哉	

欠席委員	委員 猪熊 由利子 JA 香川県女性部副部長 委員 新川 伸子 香川県公立小・中学校女性校長会会長 委員 竹内 麗子 香川県各種女性団体協議会会長 委員 谷川 俊博 香川県町村会会長
議 題	(1) 現状と課題及び指標の推移について ①香川県環境基本計画 ②香川県地球温暖化対策推進計画 ③香川県廃棄物処理計画 (2) 次期計画の策定方針(案)について (3) 今後の審議スケジュールについて(予定)
配付資料	(1) 第44回香川県環境審議会計画部会次第 (2) 香川県環境審議会計画部会委員名簿 (3) 資料1 香川県環境基本計画に基づく施策の実施状況について (4) 資料2 数値目標の達成状況 (5) 資料3 香川県地球温暖化対策推進計画に基づく施策の実施状況について (6) 資料4 香川県廃棄物処理計画に基づく施策の実施状況について (7) 資料5 令和元年度県政世論調査結果 (8) 資料6 次期計画の策定方針(案)について (9) 資料7 今後の審議スケジュールについて(予定) (10) SDGsの説明資料 (11) 環境指標の進捗状況 (12) 議題要約資料
会議録 署名委員	勝浦 敬子 委員 金子 之史 委員
議事の概要	議題(1)について 「香川県環境基本計画」、「香川県地球温暖化対策推進計画」及び「香川県廃棄物処理計画」に基づく施策の実施状況から、現状と課題及び指標の推移について説明するとともに「令和元年度県政世論調査結果」について報告した。 議題(2)について 「香川県環境基本計画」、「香川県地球温暖化対策推進計画」及び「香川県廃棄物処理計画」の次期計画の策定方針について説明した。 議題(3)について 今後の環境審議会計画部会の審議スケジュールについて説明した。

第44回 香川県環境審議会計画部会 議事概要

司会 (石川副課長)	<p>会議に入ります前に、委員の皆様方に御報告がございます。</p> <p>当審議会は、原則公開となっており、本日の審議会計画部会の開催を一般に周知いたしましたところ、傍聴希望者は、おられないことを報告申し上げます。</p> <p>お待たせいたしました。ただ今から、第44回香川県環境審議会計画部会を開催させていただきます。</p> <p>開会に当たりまして、木村環境森林部長から御挨拶を申し上げます。</p>
木村部長	(部長挨拶)
司会 (石川副課長)	引き続きまして、増田部会長から御挨拶いただきたいと存じます。
増田部会長	(部会長挨拶)
司会 (石川副課長)	<p>ありがとうございます。私は、本日の会議の進行を進めさせていただきます 環境政策課の石川と申します。どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>まず、委員の皆様方に本日の審議会委員の出席状況について御報告させていただきます。</p> <p>本日は、御都合により、猪熊委員、新川委員、竹内委員、谷川委員が御欠席で ございます。</p> <p>したがいまして、本日、御出席いただいております委員は、12名中8名で、 香川県環境審議会条例第7条第2項に定められております「委員の2分の1以 上の出席」という開会の定足要件を満たしておりますことを御報告申し上げま す。</p> <p>それでは、これからの議事の進行につきましては、環境審議会条例第7条第 1項の規定により、増田部会長に議長として議事進行していただきたいと存じ ます。</p>
増田部会長	<p>それでは、私の方で会議を進めさせていただきます。</p> <p>まず、議事に入ります前に、本審議会運営規程第4条第2項により、本日の会 議録に署名していただく委員を指名させていただきます。</p> <p>勝浦委員さんと金子委員さん、よろしくお願いいたします。</p> <p>(勝浦委員、金子委員了解)</p> <p>それでは、これより議事を進めてまいります。</p> <p>本日の議題は、令和2年1月16日付けで知事から当審議会に諮問を受けま</p>

事務局	<p>した3つの計画の策定に関する現状と課題及び指標の推移について、次期計画の策定方針案、それから今後の審議スケジュールであります。</p> <p>それでは、事務局から説明をお願いします。</p> <p>(秋山次長より香川県環境基本計画について説明)</p> <p>(武本環境政策課長より香川県地球温暖化対策推進計画について説明)</p> <p>(平池廃棄物対策課長より香川県廃棄物処理計画について説明)</p>
増田部会長	<p>御説明ありがとうございました。</p> <p>三つの計画の進捗状況、それから次期計画の策定方針、今後の審議スケジュール、盛りだくさんでございましたが、御説明いただきました。</p> <p>相互に関連していると思いますのでどこからでも結構です。御質問、御意見ありましたらお願いします。藤本委員さん、事前に質問を寄せていただいているのですが、よかったら御紹介いただけますか。</p>
藤本委員	<p>1点目は環境指標の目標値の設定についてです。目標値の達成が困難な指標があるように思います。例えば43番の耕作放棄地解消面積は、なかなか5年間の間で達成することは難しいと思えます。今後その目標値の変更等も踏まえて、考えていくのでしょうか。</p> <p>2点目が、環境指標についてです。前回の計画と今回の計画で、D評価が連続しているものがあると思います。今後の対応が前回の今後の対応と同じことをしても、難しいと考えます。環境の変化もあると思いますが、それを踏まえて、改善している部分があるのであれば教えてください。</p> <p>3点目が、社会環境等の変化についてです。御説明の中でも社会環境の変化に合わせて検討するとありましたが、特に災害があった場合の災害ごみや、水環境等についても問題が出ていると思いますので、どこまでこの計画の中で取り込んでいくのかを教えてください。</p> <p>付け加えて、県民アンケートの中の満足度と、指標の評価がずれているものが何件ありました。例えば廃棄物の苦情について重要度は高いと言われ満足度が低いとなっていますが、この指標の中ではA評価というふうになっていますし現実に苦情、相談も減っているという回答が出ています。その矛盾はどういうふうに解消されていくのでしょうか。</p> <p>最後に、市でも同じことを提言させていただいたんですが、環境の会として率先してペーパーレス化を取り組んでいてもいいのではないかと、特に同じものを2度も作っていただくことについても御検討いただければと思います。</p>
秋山次長	<p>御意見、ありがとうございました。</p> <p>まず一つ目の、目標値の中で、もうすでに達成が困難な状況にあるのではないかということにつきましては、現在80項目ございますけれども、これを次</p>

	<p>期計画の中でどうしていくかということ、これから具体的な作業の中で作り込んでいきたいと思っております。その際には先ほど申し上げました社会環境の変化、進捗状況も含めて項目、目標値をどう置くかということとしっかり検討していきたいと思っております。御指摘のとおりこの43番の耕作放棄地などは、なかなか困難な状況にはありますが、これから検討したいと考えています。</p>
増田部会長	<p>現在の計画の中で目標値を変更するという事はないわけですよね。それは次期計画の策定作業で検討するという事ですね。</p>
秋山次長	<p>次期計画の策定作業で検討していきたいと考えてございます。</p> <p>それと二つ目のお尋ねにつきましては、現在の80項目のうち、前回項目としてはなかったものや、目標値そのものがなかったものが23項目あり、前回と比較できるのが、57項目ございます。その中でD評価が継続しているものは5項目ございます。</p> <p>こちらについては今後、詳しくその数字の状況も分析していきたいと思っております。同じD評価が継続しておりますけれども、改善をしてきているものもあれば、そういった傾向も見られないものもございます。</p>
増田部会長	<p>継続している5項目の番号を教えてください。</p>
秋山次長	<p>25番 一般廃棄物のリサイクル率、27番の産業廃棄物の総排出量、53番の光化学オキシダント、64番 農業集落排水施設の普及率、そして68番 騒音の道路に面する地域、の5つの項目でございます。</p> <p>社会環境の変化につきましても、次期計画を作っていく中で新たな課題をいくつか御紹介しましたけれども、それ以外の項目につきましても、また御指摘御意見、御提案があればまた検討していきたいと思っております。</p> <p>満足度と評価の関係は、難しいところではあるのですが、確かに数値目標ですので、基本的にはアウトカムの数字で評価しているのが多いと思っております。一方で、県民の皆様の満足度はどちらかといえば主観的な判断や御意見の積み上がりというところで、我々としては評価も高く、満足度も高い結果というのが一番素晴らしいと思うのですが、なかなかそうもいかないところもございますので、まずは、そういった結果も踏まえながら、計画づくりをしていきたいと思っております。</p> <p>最後にペーパーレス化につきましてはもう御指摘のとおりでございます。なかなかそのペーパーレスにしていく手法等、検討自体がまだそこまでいってないところもございます。その辺り全庁的などころもありますが、環境森林部と</p>

金子委員	<p>して率先して検討したいと思います</p> <p>進捗状況の評価とアンケートによる、県民ニーズの把握との問題の点です。</p> <p>この環境基本計画の全体的な構造を見ると、環境の将来像は、「県民みんなで作る人と自然が共生する豊かで美しい香川」というのが、大きな将来像の目標になっていて、各分野に跨る基盤整備、地域づくりということが一番上にあり、その下に裾野としての分野別の施策が並んでいると思うんですね。</p> <p>環境基本計画の施策部分の各分野に跨る基盤整備、地域づくりという内容が、各分野別の政策を統合する役割を担っていたものだと思うわけです。</p> <p>環境指標の進捗状況を見ると、これは1から12番が環境教育、環境学習の充実で、評価のところを見れば比較的良いと思います。ところが、県民ニーズの把握の方を見ると、いわゆるDのところ、満足度も低く重要度も低いというふうになっている。県民が行政の施策に対して満足しておらず、重要度が低いと考えているという評価の趣旨が入っているわけですね。</p> <p>この二つの問題をどのように考えるのかは、現行環境基本計画がどうであったかということの評価するときの根本的なテーマだと思います。そうすると、この評価の進捗状況というその指標がよかったのか、あるいは県民のニーズの把握の仕方がよかったのか、あるいはその両方なのか。そのところをちゃんと整理して考えないといけないと思います。</p> <p>私が危惧するのは、このDの問題っていうのは負のスパイラルになっていないかなと。</p> <p>すなわち、県民が行政の施策に対して満足をしていないというのは行政の側が十分ちゃんとしたことが行われなくて、結果的にそれで重要度が低いと理解しているとすれば、数の問題とかそういうことじゃなくて中身の問題として、どういうふうにもこのような結果に至ったのかっていうことを考えないと、今回の環境の将来像という「県民みんなで作る」ということが根本的に成しえなかったとしたら、非常にこれはちょっとまずいのではないのかなと考えました。</p> <p>以上です。</p>
増田部会長	<p>私も、同じ意見があるのでコメントさせてもらってもよろしいですか。答えがあると思うんですけど、アンケート結果を4つに区分しますね。重要だ、満足度がどうかなど高い低いという、だから平均と言っているんですね。</p> <p>相対的にはこういう4グループで分けていいと思うんですけども、アンケート回答する側からは5段階でマルつけてください。ですね。</p> <p>4と5はいい方で、非常にいい。重要度といくと、野生生物の方がちょっと4を切っていますが、あと全部4以上です。だからこの項目、相対的には5に近いところと4に近いところで、全部重要というのが県民の答え。</p> <p>満足度の方を見ると、全部4以下。平均が3.3。ということはどちらでもない方が多い。「満足している」が4にっていないということは、「やや満足」を</p>

	<p>つけた人も少ない、だから満足度としては、全項目とも低い。1から5段階で評価してくださいとした結果、すべての項目は重要だと思っているけど満足度は低いというのがあって、その中でもグループ分けしたら比較的高いものと低いものがあるというふうに解析すべきで、それを30ページのように、満足度が低い、重要度が低い環境学習みたいなものを見ると、このデータ整理の仕方が間違いだらうと思う。</p> <p>だから金子先生のような御意見出てくるし、アンケート結果の解析の仕方っていうのを、もう少し見てもらった方がいい。</p> <p>重要度で4を超えたらやっぱり、多くの人が重要だと思っている。</p> <p>満足度で3.5下回ったら、やっぱり満足してない人が多いというふうに総括した方がいいのではないかと思った。</p> <p>アンケート調査の見方と、数値データのまとめを今後に向けて、お答えいただいたらと思う。</p>
木村部長	<p>この満足度調査、散布図のことで御意見いただきました。</p> <p>初めて今回入れさせていただきました。分析が十分でなかったことをお詫びします。</p> <p>先生のおっしゃるとおり、やはり重要度は全体的に高いが、満足度が4を超えているものはないという現状はあろうかと思えます。</p> <p>重要度が4を切っているから、それでいいということも決してないと思いますので、県民の皆さんが重要だと思っている中身で、対応していかなくてはならないと思います。</p> <p>重要度が低いという原因も考える必要があり、それが大事であるということをお知らせできていないということもあろうかと思えますので、そういった基盤的な部分が大事だということをお知らせいただきたく、施策を実施していくということを考えていきたいと思えます。</p>
増田部会長	<p>重要度も低いし満足度が低いから重要でない、みたいになると金子委員さん言われたようにね、負のスパイラルに入っていくと思えます。</p>
妹尾委員	<p>環境学習に関する取り組みとか、環境に関する情報提供の取り組みということについて。一般の方に聞く時に、例えば景観とか空気とか、リサイクル、ごみの分別とか、当事者である内容と、「環境学習とはどういうことを指すのか？」と思いつつながらマルをするのと、全然答えも変わってきます。これを同じ土俵で評価するということが自体に疑問を感じていて、教育へのニーズっていうのは一体何なんだろうというところもあります。</p> <p>この調査の内容とか聞く中身の吟味というのをしたい、多分これ前回の時も言ったと思うんですけども、同じことではない気がするんです。その辺りを、今後の政策に活かしやすいような形の調査というのは一体どういうもの</p>

	<p>かを考えた方がいいと思います。</p> <p>例えば情報提供などについても、実際に県民の方がどれほどきちんと情報を持っているかといった、そういった知識とか理解度とか関心度っていうようなものが評価に必要なんじゃないかと思っています。何となく漠然と環境に関して考えがあるのと、いろんな問題をしっかり理解した上で、どうやって解決するかがわかって行動するのとでは全然違うので、そういう県民を育てたいのであれば、もう少しきちんと調査をして、「だからこういう施策を取り組むのである」ということが必要だと思います。</p>
秋山次長	<p>確かに「空気のきれいさ」とか、「水のきれいさ」とか、「まちの静けさ」のように県民の皆様が個人として主観的に肌で日常感じておられる質問と、環境に関する情報提供の取り組みとか、環境教育、環境学習の機会の提供を一律に比較できるのかどうかといった御意見はごもっともだと思います。</p> <p>次期計画を作る中で、この重要度、満足度、あるいはその他のアンケートの結果も含めて分析する中で意識をしていきたいと思っています。</p> <p>次回につきましても、どういう設問にするかをしっかり考えたいと思います。</p>
増田部会長	<p>環境森林部としては、全部の重要度が高くて満足度も高いというところを目指していると。そしたら、ここが低く出ているのは何故か。</p> <p>やっぱりPRが足りないとか。政策の方に活かし、評価を高くするというようなところに活かしていただくということです。</p> <p>このデータを、次期計画に向けてまた御検討いただければと思います。</p>
勝浦委員	<p>アンケートに関して。「水のきれいさ」というのがあるんですが、これはどのようなことを指して、回答しているのでしょうか。</p> <p>それと節水をすごく進めているということで、もちろん節水は大事なことです。やはり水を汚さないということも教育の中に文言として入れるっていうことがとても大切だと、いつも思います。水をちゃんと使っていただいて、汚さない。それによって水の単価も安くなると思うので、水の環境教育をしていただければいいなというふうに思っています。</p> <p>「リフレッシュ香の川パートナーシップ協定」については、私も地域の川のごみを減らすということで、協力・参加させてもらっていますが、団体がだんだん減ってきています。あまり魅力的な取り組みがなく、ただ単にごみを拾って歩く、それで終わりっていう感じです。私が参加しているのは、学校の環境講座の一環として、川の調査の時です。その場合は、ごみ拾いだけじゃなくて、どれぐらいごみがあったか、どんなごみがあったかっていうことを、みんなで調べたりするから、興味も出ると思うんです。ただ単に、川の清掃ですってごみを拾うだけでは、本当に魅力がない。魅力あるような取り組みに変更していただくと、人数も増えてくるんじゃないかと思っています。</p>

<p>環境管理課 小蓑課長</p>	<p>それとも一つですが、ビルで再生水を使う取り組みをしていると思うんです。「この水は再生水使っているんだな。だからちょっと黄色みたい」とか思いながら、使っています。それがとっても高くつくってということなので、一生懸命、再生水を使うよりも、もっとわかるところで使って欲しいと思っています。</p> <p>水を汚さないというような視点でございますけれども、環境管理課の方でも里海事業というのがございまして山から川、町、海と全部繋がっており、上流で汚したものが下流のところに影響しますし、海まで行きますよというようなことを、普及啓発しています。教育、人づくりを中心に進めており、それが将来成果を結ばばいいなと思いき事業を進めておるところでございます。</p> <p>「香の川」につきましては、大分長い事業でございます、その取り組みの内容が変わっておらず、飽きられてきたところもあるかと思っておりますけれども、もう少しPR活動をし、魅力のあるような内容に変えていけたらということは考えておりますので検討させてもらいたいと思います。</p>
<p>環境政策課 武本課長</p>	<p>今回の県民アンケートの聞き方として大きくは、身の回りの環境についてという項目の中で、当てはまるものに番号をつけてくださいという中の項目の中に、「空気のきれいさ」、「水のきれいさ」、「まちの静けさ」、「身近な生き物の豊かさ」、「みどりの豊かさ」、「景観の美しさ」、「夏や冬の過ごしやすさ」と、そういうような切り口の中で選んでもらうようになっておりました、「水のきれいさ」というところには括弧書きで、(川、ため池、海など)というような表記になっており、この中から選んでもらうようになっております。</p> <p>それから少し前の御質問と関連しますが、これとは別に行政の環境への取り組みについてという大きな切り口の中で、環境に関する情報提供の取り組みとか、下水道、浄化槽の汚水処理対策はどうかとか、そういうふうな切り方をしておりまして、最初のマトリックスは、それらも含めて全部使っているんで、少し見にくかったのかなとは思っております。</p>
<p>久米川委員</p>	<p>一般的なことで、ごみの分別、例えば燃えるごみ、燃えないごみ、粗大ごみ、プラごみとか、高松市では大体四つか五つに分かれていると思います。他県では結構細かく分けて出していますけどそれに関して、その方向があるのかどうか。</p> <p>また、高松で聞いたんですけど、せっかく分別したプラごみを燃やしているというふうに伺ったが、それは本当なんですか。分別して出したものが将来どうなっているのかの情報開示が全然されてないように思う。分けて出したプラごみを燃やしているということであれば、それはいかなものかというふうに思います。</p> <p>あと小泉環境相が、火力発電、石炭の発電をなかなか減らせなという話だったんですけど、香川には石炭の火力発電はないんですか。</p>

<p>環境政策課 武本課長 廃棄物対策課 平池課長</p>	<p>香川県内には火力発電はございません。</p> <p>県内の市町の一般廃棄物ということだと思うんですけども、その分別の状況は市町によって異なっている現状でございます。</p> <p>その分別の種類を増やすのかどうか。例えば有名なところでは徳島県の上勝町というところにつきましては、かなり小さな自治体ということもあるんですけども、かなり分別しているというような先行事例もございます。今のところ県内の市町で、そういう分別を増やしていこうという情報は入ってはいません。</p> <p>プラごみを燃やしているんじゃないかっていう話があったと思うんですけども、来年度にかけて、プラスチックごみの対策を県としても市町ともどもやっしていこうという話の中で、まずはそういうプラスチックごみっていうのがどういうふうが発生していて、どういうふうに分別をしていて、それが本当に燃やしているのか、燃やしている場合も燃料として燃やしているのか、それとも、本当に焼却場で燃やしてしまっているのか、その現状の把握っていうのが大事だと思っております、県の事業として来年度しっかりやっていくことを、今検討しているという状況でございます、それを含めて情報開示をするかどうかというのは検討させていただきたいなと思っております。</p>
<p>久米川委員</p>	<p>高松市では一般ごみと一緒に燃やしているというふうに僕は伺いました。それは本当なのかどうか、そこは知らないんですか。</p>
<p>廃棄物対策課 平池課長</p>	<p>私どもが認識している高松市のごみに関しては、プラスチックごみは燃やしていないと把握しておりますが、確認してお伝えしたいと思います。</p>
<p>鎌田委員</p>	<p>計画を策定して、いろんな指標を設けて、それが達成できたかどうかを評価するのはすごく大事なことだと思うんですけど、行政主導でできることだけじゃなくって、例えば「買い物袋の持参率を上げる」だと県民一人一人が取り組むことだと思うんです。こういった目標は香川県がこういう目標設定してそれに向かっていっている、ひいてはそれが地球環境を改善することになるっていうことを、どういうふう周知していくのかということが気になりました。</p> <p>特に今、40歳より下ぐらいの人だと新聞やテレビもあまり見ないでしょうし、インターネットで情報を得ているような世代には、どういうふう周知していくのが気になりました。</p>
<p>秋山次長</p>	<p>様々な施策を、例えば広報誌でありますとか、新聞やラジオなどを使った広報、様々なイベント等を通じての広報、あるいはパンフレット等を作って配布したりして、効果的と思われる手法を使って広報には努めておりますけれども、</p>

<p>吉田委員</p>	<p>まだまだ周知普及していけるところがあるのではないかと考えておりますので、広報していくべきものにつきましては、さらに工夫していくということを検討していきたいと考えてございます。</p> <p>私はパン屋で、食品関係をしているので、食品ロス削減推進法に一番興味を持ちました。これは国が10月から施行されています。うちの場合なんですけども、食品ロスの方は、前日のパンを5個入りで何ぼと書いて、店の前に置くとすぐ売れるんです。そういうふうにして残らないようにする努力を各々がしている次第です。本当にもったいないので。</p> <p>パンも1個ずつビニールをしていますから、残ったその品物とビニールともども大量に残ります。10月からと書いていますのでまた、何らかの形で県の方もしてくれらると思っています。</p> <p>それに一番身近な問題のスーパーの買い物袋ですが、近くのスーパーに行ってもみんな買い物袋を持ってきています。これはもうほとんどみんな行き渡っていると思います。</p>
<p>廃棄物対策課 平池課長</p>	<p>まず一つ目の食ロス削減の件でございます。国の方も法律ができたということございまして、委員さんにおかれても御協力いただきまして誠にありがとうございます。国の方で法律がございまして、それを受けた基本方針というのが今年度中に国で決まることになっております。法律にも定められているんですけども、県においても削減の計画を作るようにということで、作成に努めることとされておりますので、それを踏まえて、県としても計画を作って対応を進めていきたいと考えております。特に食品ロスにつきましては、家庭から出るもの、事業所から出るもの、事業系・家庭系という部分もございまして、また事業系についても、様々な方から御意見をいただきながら、どういう対策を進めていくかということはその計画に盛り込んでいきたいなと考えております。</p> <p>それとスーパーのレジ袋につきましても、7月から有料化ということでございますので、県の方でもそれとともに何かできるものがあるのかどうかということも含めて検討して参りたいと考えております。</p>
<p>妹尾委員</p>	<p>県民一人一人が協力して、例えばマイバックを持っていくといったようなことを言われることが多いんですが、今、吉田委員さんが、近所のスーパーでは持ってきている人が多いと言われたんですが、私が行くスーパーでは、頼まないのにすぐに袋に入れてくれるので、断る隙がない時があります。事業者によって差があるというところもありまして、やはり事業者が積極的に取り組むように働きかけることも必要かなと思います。</p> <p>大学生とかに聞いても、「勇気を出してレジ袋を辞退したいと思います」と言うことがあるんですけども、勇気を出すのは「ください」と言う方にするべきだと思います。だから、「持って行って当然でしょう」という空気を行政も積</p>

	<p>極的にPRして働きかけないと。</p> <p>やっぱり事業者の方は、お客様に嫌われてはいけないとか、怒られることもあるということも聞くので、両面からしっかりと、アピールすることが教育とか啓発になると思うんです。理由も含めてしっかりと伝えていくことが必要で、そういう意味では、「できていない」という、評価に繋がるのかなと思いました。</p> <p>食品ロスに関してですが、ロスになったものでまだ食べられるけれども、廃棄されるものがたくさんあるというので、小売りの方ですごく頑張ってもらってる話も今聞いたんですが、やはり仕組みとしてそれを集めて食べ物を必要としているところに配るとか、そういった仕組みも積極的に取り上げて、PRするとか応援するとかそういったことを進めていく施策も大切かなと思います。</p>
<p>廃棄物対策課 平池課長</p>	<p>レジ袋につきまして現状おっしゃるとおり、頼まない、という感じですね。私もスーパーで買うと、レジでかごに袋が2、3入ってくるような状況でございます。プラスチックごみの一つでございますが、使い勝手がいいということもあって、たくさんくれるところに行ってしまうという消費者心理もあろうかというふうに思っております。</p> <p>そういう意識を変える一つの契機といたしましては、繰り返しになりますけれども、今の環境省と経済産業省の方で、制度を検討しております7月からのレジ袋有料化義務化でございますけれども、そちらの国の議論も踏まえながら、香川県としても事業者が積極的に配らなくなるということが、どういうふうにしたら意識づけができるのかどうかということも含めてですね、検討して参りたいと思っております。</p> <p>それと食品ロスの方のお話でございますけれども、まだ食べられるものをどうやって橋渡ししていくかということだと思っておりますけれども、意識が高いNPOさんでのフードバンクという取り組みがございまして、実はこの日曜日に四国新聞の方にも大きく報道されていたと思うんですが、国の方、農林水産省で、フードバンクという取り組みをより積極的にやっけていこうとしています。</p> <p>食品が余る事業者さんがありましたら、食事に困っている方に、どうやって橋渡しをしていくのかというような取り組みが、一部でとり行われておまして、先ほど御紹介いたしました食品ロスの法律の中でもですね、フードバンクというのをより積極的に広めていこうというような規定もございますので、本県においてもどういうふうな取り組みができるのか、本県においてはフードバンク2団体が取り組みをされていると聞いておりますので、そういうところと、どういうふうな連携ができるのかということは考えていきたいと思っております。</p>
<p>勝浦委員</p>	<p>先ほどの水を再利用するっていうビルの話ですが、水は地球上で循環しているということなので、無理に再生しなくてもいいかなと思っています。私自身、子供たちに「水は地球上で循環している」ということをお話し、水をきれいに</p>

	<p>流す、使うっていうことを重点的に子供たちにも伝えていきます。高くつくんだったら再生しなくても、ということを行いました。</p> <p>買い物袋持参率については、グリーンコンシューマー香川というところで頑張っていて、だんだん持参率を上げていったわけですが、平成26年の36.6%ってというのは、評価がどれぐらいだったのかと思いました。</p> <p>それとアンケートで、買い物する時にマイバッグ持参したり、詰め替え商品や簡易包装の商品を購入する、ごみを減らしているという項目の中に、買い物袋持参率が入っているということなのではないでしょうか。</p> <p>これが、買い物袋だけの持参率で言えば、先生がおっしゃったように、とても低い状態で、買い物袋を持ってきている人を本当に見ないっていうのが現状のはずなんです。</p>
増田部会長	<p>マルナカはくれますから持ってかないけども、イオン等もう有料化しているところは、みんなマイバック持っていくと――</p>
勝浦委員	<p>食品は有料化にならないんじゃないですか。</p>
廃棄物対策課 平池課長	<p>今、国の方でレジ袋の有料化義務化っていう言い方をしているんですけども、どういうものが対象外になるのか。例えばレジ袋の中に25%バイオ由来のものがあつたら、それは有料化の対象から外しますとか、小分けのビニール袋をどうするかとか、そういうことを今議論されていると聞いています。私の主観かもしれませんが、今、マルナカとかで配られているレジ袋というものは、まず対象となるメインのターゲットではないかな、と思いますけれども。</p>
勝浦委員	<p>はっきり決まってない。</p>
増田部会長	<p>皆さん一人一人が認識を高く持ってくださらないとなかなか広まらないが、有料ですって言った瞬間に、ある程度は。あとそこから先は、自覚の問題っていうか、まさに教育でどう理解を深めてもらうかっていうことだろうと思うんです。</p>
勝浦委員	<p>3Rの研修で東京の方に年1回行くんですけども、全国にいる3Rの委員が有料化した方がいいと言っても全然、国の方は及び腰でなかなかできてない状態です。環境にいいレジ袋だったらいいとか抜け道を作ったりして、はっきりしてないっていうふうに思います。</p> <p>26年度の買い物袋持参率の評価がどうだったのか。グリーンコンシューマー香川は頑張ってきたんですが、今は解散していますので。</p>
秋山次長	<p>まず買い物袋持参率です。26年の、36.6%のところの評価が手元にない</p>

<p>勝浦委員</p>	<p>ですけれども、前計画の最終の平成27年が、39.5%で、こちらはA評価でございます。</p> <p>持参率と、世論調査の結果の関係ですけれども、これは全く別の調査でございます。この持参率の調査は毎年10月5日を基準日として、スーパーや、個別の店舗の御協力を得まして順次調査を行っております。今年度は13社、108店舗の御協力を頂戴して実施し、その結果ということでございます。</p> <p>そしたら続けてずっとしていただいているっていいことですね。</p> <p>CO2削減ってことはとっても大切なことで、森林に関してCO2を削減するためには間伐をして残っている木を大きくするというのも講座でもお話させていただいています。私に取り組んでいることを言って申し訳ないですが、グリーンコンシューマーが2000年からずっと取り組んでいて、特に平成17年に県から助成金を頂いて、割りばしを回収してリサイクルしています。始めは他県でリサイクルしていましたが、今は香川県内の大倉工業というところでパーティクルボードに使っていただき、森林を2度使うということを皆さんにお話させていただいています。</p> <p>また割りばしを作り復活させ、県のみどり整備課でサンポートでの販売をしていただいたりしています。こういうふうなNPOの取り組みはCO2削減の中に入れていただいているのでしょうか。</p> <p>というのは平成17年から22年までに私たちが、3200万本64トンの割りばしを回収して、CO2削減を102トンほどしたっていう数値を皆さんにお伝えしたり、森林も守る間伐材の重要性をお話させていただいたりしているんですが、ちょっとでもこういう数値に入っていれば、活動していただいているかなと思っております。</p>
<p>環境政策課 武本課長</p>	<p>温暖化計画のところにもあるんですけども、温室効果ガス排出量のところになってくると思います。勝浦さん、いろいろ取り組んでいただいでですね、CO2削減していただいていることについては大変ありがたいと思いますし、本日御出席の方でもいろいろ削減活動していただいていると思います。</p> <p>数字の出し方については、エネルギー換算でやっているというところがございまして、個々の取り組みの積み上げというよりは、実際に出しているエネルギーの量を見て統計から引っ張ったりとかですね、そういったところから計算していますので、直接的には換算されてないのかもしれませんが、間接的には当然されていると思いますので、今後とも御協力の方よろしくお願ひしたいなと思っております。</p>
<p>増田部会長</p>	<p>ヒノキの間伐材、勝浦さん使われていますよね。</p> <p>だからこの県産木材は、搬出間伐とかデータ出ているので、午前中のみどりの基本計画の方では搬出間伐があったんですけど、22番に県産木材の搬出</p>

<p>環境管理課 小蓑課長</p>	<p>量っております。県産木材の搬出、ここに搬出間伐が含まれていますので、ここの中に隠れているんですけどね。間伐してその搬出材を有効活用するという中に。非常にいい取り組みだと思います。</p> <p>CO₂の関係は森林の吸収量が基本になっていまして、それは何かと申しますと、植物は空気中のCO₂を吸ってまた出すということで、それはカーボンニュートラルということで、0だと。森林に蓄積されるCO₂がどれぐらいあるかというのを計算するのがまず基本ですので、どれだけ森林増えたかということですので。ですから勝浦さんの、どちらかというトリサイクルの方で数字を出していくのが一番いいのではないかなと。</p>
<p>増田部会長</p>	<p>新規に間伐をして整備するのが森林整備で多分吸収源にカウントされると思いますので、詳しく調べますけど、確か新規間伐は森林整備でされますよね。</p>
<p>環境管理課 小蓑課長</p>	<p>一応物としての蓄積ということですよ。木材としての蓄積、ということになるかと思います。</p> <p>それと水の関係ですけれども、水をきれいにしようということでは、先ほど申しました里海が繋がっているよっていう教育と、基本的には生活排水の処理とかそういったものですから、污水处理人口、ここで申しますと指標のですね、62番とかですね63番とかそういった污水处理人口の普及率を上げていくこと、物理的には水の容量を減らしていこうということで取り組ませていただいております。</p> <p>再生につきましては、先ほど循環するという話もありましたが香川県の場合、再生はどちらかという節水対策ということで一つの水を2回使おうということで、中水利用とか、そういったものに使っているのが現実でございます。</p> <p>ですから、電気代がかかりますけれども、節水という非常に大事な要素がございますので、それを進めていく必要があるかと思っております。</p>
<p>妹尾委員</p>	<p>策定の考え方のところなんですけど、33ページに、現行計画の進捗状況や社会経済情勢の変化、県民の意向等を踏まえとあるんですけど、その計画書に載せるかどうかは別として、「先進的な事例からしっかり学ぶ」ということを入れた方がいいかと思います。同じ系列のお店でも、他県だったら全部レジ袋有料だったとか、広島に行ったらゆめタウンが有料だったが、香川にきたら無料だったということも聞きます。なぜそちらではやっていてこちらでできてないのかといった分析をし、こちらの取り組みを進めていかないと、県民の意向が果たしてそれに則って進むのかというようなところもあります。</p> <p>レジ袋も昔から当たり前のよう有料化している地域もたくさんありますし、海外には、全部生分解性のレジ袋が使われている店もあります。そういう事例を知らなければわからないんですが、知ると、自分たちがいかに遅れてい</p>

	<p>るかっていうようなことに気づくこともあります。</p> <p>先進的なところから学ぶということをしっかりやってはどうかと思いました。</p>
秋山次長	<p>次期計画を作っていく中で、社会経済情勢の変化の分析もしますので、そういった中で今御指摘のございました、先進的な事例、他県とかそういったところのものを勉強し、計画にも反映していきたいというふうに考えてございます。</p>
増田部会長	<p>今までですとペットボトルが出ていたのが無くなって、紙のコップのお茶になっていますし、ネームプレートが木製できれいで、大分気を使われているなど。県の方も率先して進めていただいているなどは思いますけれども。</p>
吉田委員	<p>どんぐり銀行というんでお店にきたんですけど、子供がどんぐりを持っていったらなんかと交換できると。これは関係ないんですかね。</p>
みどり整備課 穴吹課長	<p>みどり整備課が取り組んでいる活動でございますけども、山に入ってくださいっかけづくりになればということで、子供たちが山へ入ってどんぐりを拾って県の窓口へ持っていきますと貯金通帳に入って、それを色々なグッズに交換できたり苗木に交換できたりできるんですけども、最近はいろんな事業者さんに御協力をいただきまして、例えばケーキを1割引にさせていただくような、券に交換するとかそんな御協力をいただいております。</p>
増田部会長	<p>吉田さんのお店にも入ってくださいということだね。</p>
吉田委員	<p>すいませんこの場を借りて説明していただいて。</p>
増田部会長	<p>ただ、どんぐりを持って行って、何かをもらうだけというよりは、一般に広めたいということで、みどり整備課の方が、スタンプが何個か集まったら、お菓子屋さんで割引してもらえる、と。</p> <p>一昨年の、全国育樹祭に合わせて打ち上げたんですけど、やっぱり宣伝が足りない。</p>
みどり整備課 穴吹課長	<p>宣伝が足りませんでした。いろいろチラシを配ったりホームページに載せたりしておりますので、さらなるPRに努めたいと思います。</p> <p>時期が12月の中旬ぐらいまでと決まっています。</p>
増田部会長	<p>いろいろ県の方にも努力してもらいますが、県民の方としてもやりたいことがあるかなと思います。他にどうでしょうか。よろしいでしょうか。</p> <p>そうしましたら御意見出尽くしたようですので、事務局にお返しいたします。</p>

秋山次長	<p>連絡事項で、お願いがございます。</p> <p>先ほど今後の部会のスケジュールにつきまして御説明をしましたがけれども、3月の計画部会につきましては、3月25日の水曜日13時30分にこの会議室で開催をいたしますので、よろしくお願いをいたします。</p> <p>以上でございます。</p>
増田部会長	<p>はい、ありがとうございました。</p> <p>それでは本日の議事を終了させていただきます。皆さん大変熱心なご討議ありがとうございました。事務局もよろしくお願いいたします。</p>
司会 (石川副課長)	<p>それでは以上をもちまして、香川県環境審議会計画部会を終了いたします。</p> <p>本日は委員の皆様方、長時間にわたりありがとうございました。</p>

部 会 長

署 名 委 員
